

令和5年度 第2回JR小野田線活性化委員会 議事録

令和6年3月27日(水)

1 協議事項

発言者	発言要旨
◆ JR小野田線沿線地域における公共交通の現状の課題について（調査分析結果の報告）	
榊原委員長	事務局より説明いただいた。御質問や御意見をお願いしたい。
木村委員	この半年間で勉強会を頻繁に開催し、報告書をまとめていただいた。事務局に感謝申し上げます。学生が公共交通を利用する潜在需要の可能性が明らかになった。また、山口東京理科大学新学部の増設、他の事業者への影響等、検討すべき点が多々あると認識できた。引き続き関係個所とも調整していきながら実証実験をスタートしていくものと理解している。当社の技術的な対応を含めて協力していきたい。
榊原委員長	鉄道だけ、あるいはバスの単体だけでは先ほど説明のあった潜在需要に对应できない、例えば行きの登校時は良くても帰りの帰宅時に対応できない点など、共通乗車制度である程度カバーできそうな箇所もあるし、それでもカバーしきれない箇所があるかもしれないこと、JR芸備線における路線バスとの連携策の事例等をまとめていただいている。これらについてはこれまで勉強会で議論してきた内容かと思うので、何か追加のご質問等があれば後ほどお願いします。
◆ JR小野田線沿線地域における公共交通の持続化に向けた取組の方向性（案）について	
榊原委員長	事務局より説明いただいた。御質問や御意見をお願いしたい。
榊原委員長	通学生に対して、鉄道とバスの共通乗車制度を実現したいという点において、大きな方向性については各団体から概ね同意をいただいたかと思う。そして制度の詳細については詰めるべき要素があり、論点は絞られているように思うが、こちらについて皆様が合意できるような内容にしていかなければならないものと理解している。持続性を考えると効率的な実施が必要で、徳島の事例を見ても実施主体主導のオペレーションであるが、持続的なものにするにはシステムのなところを構築する必要がある。
磯中委員	潜在需要としているターゲットである学生は今どういう交通手段で通学しているのか。共通乗車制度を導入したときに利便性は上がるであろうが、経済性という点が抜けているように思えるので今後検討すべきでないかと思う。もともとお金がかかるから自転車通学としている子が公共交通に乗り換えると費用が発生するというので、共通乗車制度を上手に進めても中々転換が進まない懸念がある気がするが、そのあたりはどうか。
事務局	現状の通学手段は自転車が多い。自転車に次いでJRが多いという現状。路線バスで通学されている学生は比較的少ないかと思う。委員さんがおつ

	<p>しゃるように、現在経済的な問題もあって自転車で通学される方もおられるかと思う。今後、共通乗車制度のサービスの対価を考えていくときに色々な要素があるが生徒さんの経済状況なども理解しながら、併せて、本制度をあまりに安く設定しすぎると鉄道とバスのお客様の取り合いとなるような懸念も考えられるので、他のバス事業者も話に入ってもらいどういったラインが妥当なのかを今後話し合っていきたいと思う。</p>
榊原委員長	<p>先ほどの潜在需要の話で学校にとっても近い人は外して、ある程度離れた、自転車だと通学するのに大変だろうという人をターゲットにしており、それでも頑張って自転車で通学されている人をどうやって取り込むかという話かと思う。バスで通学されている方もある程度データで取れているので、そのあたりをどう考えるかが課題ではないかと思う。</p>
田中委員	<p>JRに質問ですが、小野田線はICカード化を図るのか。また宇部線もICカード化が進む可能性はあるのか。</p>
木村委員	<p>当面对応する予定はない。</p>
榊原委員長	<p>今回の共通乗車制度を実際に運用する中で今話のあった決済をどうするのかという点は大事なところで、田中委員からご指摘あったところかと思う。今出ている案は、この地域の鉄道・バス事業者の現状を前提とした場合に、こういうものがあれば制度を進めることできるということで検討を進めていると理解している。併せて、決済方法も含めて、委員会にご参加の各団体におかれては危機意識であるとか、協力・連携していくことについては皆様同意がとれていると理解している。しかし制度の細部を詰めていかないと実現できないので、引き続き議論し、1年後には制度を作ると考えると、来年度の入学生にアピールできる形にしていけないといけない。また、通学には公共交通を使ってくださいということを地域全体としてメッセージを出していければと思う。</p>
<p>◆今後の取組スケジュールについて</p>	
榊原委員長	<p>事務局から説明いただいた。御質問や御意見をお願いしたい。</p>
田中委員	<p>JRさんの考えている共通乗車制度に係るシステムのようなものを当社でも検討しているので、また協議等ができればと考えている。</p>
榊原委員長	<p>これを機会にJRさんと船木鉄道さんの協力体制が構築できれば良いのではと思う。</p>

2 その他

発言者	発言要旨
木村委員	繰り返しになるが、勉強会、実務者レベルでの調整、この活性化委員会での関係者皆様、加えて榊原委員長、井上委員にご協力いただき、感謝申し上げます。今回、共通乗車制度の協議が始まったところであり、試験運用も含めてスタートを目指していくのであるが、これが「ゴール」というわけではなく、委員長の言われる、地域に相応しい交通、鉄道とバスが「公共交通のパートナー」として、地域に貢献できるか、を見極めていきたい。勉強会などを通じて地域に相応しい公共交通の利用拡大・底上げにつなげたい。引き続き皆様と議論を続けてさせていただきたい。
榊原委員長	今、JRさんからあったとおり、この地域での連携を深めていく一つの特許にさせていただきたいと思っている。人口減少が進んでいても山陽小野田市、宇部市を合わせて人口20万を超えており、それぞれ商業施設、教育機関など立地する中で、両市の都市環境総力を上げていく上で、両市間の交通の利便性を高めることは大切だと考えている。今回は小野田線が一つの端緒ではあるが、出来れば更に広げる形をとればと個人的には問題意識を持っており、今後も議論が出来ればと思う。

閉会